

9 喀血・仮性肺動脈瘤形成をきたした全身性動脈静脈吻合異常の1例

高木 聡・吉村 宣彦・木村 元政
酒井 邦夫

新潟大学医学部放射線科

喀血にて発症し、血管造影にて仮性肺動脈瘤の形成と動脈瘤への気管支動脈の関与が認められ、TAEの施行にて症状の改善をみた全身性動脈静脈吻合異常の一例を経験した。

仮性肺動脈瘤形成の原因としては、感染症・膠原病・心疾患・悪性腫瘍・外傷などが一般的とされている。肺動脈静脈吻合異常症例では、病変部への気管支動脈の関与に伴う異常血管の拡張や、症状の増悪が報告されているが、体循環の動脈静脈吻合異常症例における気管支動脈の関与と仮性肺動脈瘤形成はきわめて稀である。

自験例において、気管支動脈の動脈瘤への関与を画像上確認でき、かつ塞栓術を施行することで症状の改善を見ることができ、興味深い症例と考え報告した。

II. 特別講演

「動脈塞栓術の新たな展開」

りんくう総合医療センター
市立泉佐野病院放射線科部長
堀 信 一

第46回新潟画像医学研究会

日時 平成13年11月10日(土)
午後2時～
会場 新潟大学 有壬記念館

1 MRCP上RAS(Rokitansky - Aschoff sinus)が明瞭に描出された胆嚢癌の1例

高野 徹・國井 亮祐・尾崎 利郎
松月 由子・伊藤 猛・西原真美子
五十川 修*・小池 雅彦*・鈴木 全**
草間 昭夫**・岡村 直孝**
内田 克之**・田島 健三**
薄田 浩幸***・江村 巖***
加村 毅****

長岡赤十字病院放射線科

同 内科*

同 外科**

同 病理***

新潟大学医学部放射線科****

症例は70才男性。心窩部痛のため腹部エコーを施行。胆嚢壁の肥厚を指摘され精査。CT, MRI, MRCP, ERCP施行したところ壁の不整に乏しくRASが明瞭に描出されたため胆嚢腺筋腫症と診断。症状があるため手術施行。肝床をはじめ広範囲に浸潤を伴う進行癌であり非切除となった。本症例は胆嚢腺筋腫症のdiffuse typeに癌が合併したのと考えられた。胆嚢腺筋腫症に合併した胆嚢癌はまれであるが、RASがみられる場合でも、癌合併の可能性も念頭におき壁の性状を詳細に評価することが重要と考えられた。